

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4071001376
法人名	株式会社 サポート
事業所名	グループホーム ピアおざさ
所在地 (電話番号)	福岡市中央区小笹1-14-2 (電話)092-525-7352
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 20年 1月 10日

【情報提供票より】(平成19年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(180,000 円)	<input type="checkbox"/> 有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月24日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	博愛会病院・栗林循環器科医院・ゆみこ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は長崎に本社を置き、既にグループホーム等多数経営している。事業所は大手通りを少し山手に入ると、マンションが立ち並ぶ閑静な住宅街の中にあり、3階建ての白い建物である。1階に小規模多機能、2・3階がグループ・ホームとなっている。1階は昼間の時間を地域に開放し色々なサークル活動が行なわれている。2・3階の利用者も参加する機会が多く、地域との交流の場となっている。管理者は認知症等の研修指導の資格を有し、今後は、地域住民を対象に認知症の理解や接し方等の勉強会の取り組みを計画している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題、「言葉使い」「2階と3階の交流がない」は、話し合いを行い全員で取り組み改善されており、サービスの質の向上に努めている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員にサービス評価の意義や目的を伝え、自己評価の一つひとつを全職員へ取り組み説明を行ったが、職員の理解が薄く自己評価を活かしての具体的な改善には至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、商店街の人等の参加を得ている。住民より2ヵ月毎の開催は難しいとの声があり半年に1回開催している。内容は前回の検討項目や改善項目及び事業所の現状報告である。出席者より意見を頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会時に本人の状況等をお話し、意見や苦情など改善点があれば対応している。今後は写真や広報を作成し現状報告を行なうように計画している。また家族から「個別に相談コーナーを設けてほしい」との要望があり取り組みを検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民として町内会に加入している。地域の運動会に利用者が参加し、また中学生がプラスバンド演奏に来てくれたり、1階は地域の交流の場として開放している。また回覧板に「介護相談サービス」の案内をだし、地域と交流の機会を持つようこころがけている。今後は町内清掃に参加できるよう取り組みを検討している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の「一緒にゆっくり笑って暮そう」と理念が掲げられているが、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくと謳った理念が掲げられてない。	○	地域密着を念頭に「地域の中でその人らしく生活できる」事を支えていく具体的なイメージを持つ理念として見直しを望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を把握しており、理念に基づいて共有の統一を図るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会に加入している。地域住民の一人として地域の運動会に利用者が参加したり、1階を地域の交流の場としてサークル活動に開放したりしている。また地域の回覧板等に「介護相談」の案内をだし、地域の方の参加を得て、交流している。今後、町内清掃への取り組みを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価に関してはミーティングを行い、改善を行なっている。今回の自己評価に関しては、職員の認識は薄く、外部評価の意義等の理解が出来てない。	○	今後サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組むことが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで地域住民の2月1回の参加は難しく、半年に1回の会議の開催であったが、今後は、地域密着型事業のサービスを説明し、2月に1回の開催に決定した。外部評価の意義や結果を報告したり「介護110番」「介護相談」等も行なっている。緊急時・災害時の地域とのネットワーク作りを進めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ市との積極的な交流は行なわれてない。	○	市の職員に運営推進会議に参加していただいたり、お互いに提言や助言を行なう事ができるよう連携を図り、情報交換を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、この制度について学習をしている。職員はこれまで学習の機会がなかったが、今年は研修に取組む計画を立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の状況等を話している。また面会が少ない家族に対しては、毎月の請求書の中に状況を記した文書を同封している。今後、事業所だより等の取り組みを検討している。金銭についての報告は、請求書送付時にされている。退職等があった場合も、家族や利用者へ報告されている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情など気軽に相談できるようにしている。家族より個人面談を定期的に開催してほしいとの要望があり、取り組みを行なうようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はないが、新人職員はその都度紹介をしている。離職した職員については、尋ねられたら報告をしている。一時は離職者が多く、家族から苦情があったが現在は落ち着き、利用者・家族が不安にならないよう対応を行い連携を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	介護についての適性があり、夜勤が可能であることを基準に、採用にあたっては、性別や年齢等を理由に除外はしてない。現在70歳の職員が食事を担当する等、個々の能力を発揮できるようにしている。職員の休暇や勤務交替は対応できるようにしている。働きやすい職場環境づくりに配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より人権教育に取り組んでいる。利用者は人生の大先輩であるということを念頭においている。利用者一人ひとりの思いや価値観を尊重するように心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の離職が多かった為、勤務上研修の取り組みが思うよう実践されてない。法人の研修は伝達研修が主に行なわれている。外部の研修の取り組みまでには至っていない。	○	職員は研修を望んでいる。研修計画をたて伝達研修のみではなく、法人内外部の研修を積極的に取り組み、他事業所との交流を行なう等、職員の質の向上に努めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者との交流や勉強会の取り組みは行なわれてない。	○	同業者との交流を行い、お互いに意見交換を行い、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用する前に、本人・家族に何回か見学して頂き、馴染みの関係づくりができるようにしている。体験利用や希望があれば体験宿泊ができる。利用者によっては自宅へ数回訪問し、利用者の希望や意向の把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	料理や干し柿の作り方、地域のことわざや病気が良くなる方法等、職員は利用者から人生の大先輩として学ぶ事が多い。また、若い職員には礼儀作法や感謝の気持ちを持つ事など昔ながらの多くの知恵を学んでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	定期的に本人や家族の希望・意向を開きケアプランに取り込んでいる。コミュニケーションが困難な利用者は、生活歴や趣味等を考慮し、職員と家族の連携を深め、利用者一人ひとりの思いに応えられるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画作成時には家族の方から聞き取りを行い、職員全員の意見を取り入れ、計画内容に反映されている。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	基本的に年1回ケアプランの見直しがされている。状態等に応じて2～3ヶ月に1回カンファレンス・アセスメント会議が開かれ、必要に応じて随時介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階に併設している小規模多機能施設の設備を利用して、習字教室やカラオケ、音楽療法へ参加ができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある方は家族の希望や意向によりそのまま継続してもらうが、その他の方は24時間対応の在宅クリニックにて対応してもらっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の案内時や契約時に、出来る限りで看取りまで引き受けたいという意向を各家族に話している。現在のところ、重度化に転じた方はいないが、今後そのような事があれば、治療方針などを家族に話した上で決定する方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者に対して尊厳をもって対応しており、ユニット会議にて言葉掛けや名前の呼び方・対応の仕方の見直しを行っている。利用者個々の情報の守秘義務の徹底や、書類の保管管理については十分に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に体を動かさないことが多くならないよう、出来る限り希望を尊重しつつ、その人にあつたペースで支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じた役割分担や手伝いを行っている。たとえば、コロッケやお好み焼き等の得意料理を披露して頂いたり料理の盛り付け・食後の後片付けを職員と一緒にしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴して頂けるよう心がけているが、利用者の希望を優先するため、週に2～3回の入浴の方が多い。昼食後と夕方の2回、お風呂を沸かし希望の時間に入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前からの生活歴や趣味嗜好の情報収集に努め、失敗しながらも生活歴を生かして動いて頂き、何もしていない時間をなくすよう支援している。生け花の上手な入居者に教えてもらいながら職員も一緒に花を生けている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物から遠方への外出等、利用者の希望を取り入れながら積極的に外出を楽しんでいる。希望があれば毎日でも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしないケアを行ってきたが、安全を考慮し各居室のベランダ側のサッシに、体が通らない位しか開かないようストッパーを取り付けた。これは家族の同意を得ている。	○	危険防止の意図は理解できるが、ストッパー無しで見守りによるケアを心がけることが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回、日中・夜間想定にて避難訓練を実施している。マニュアルを作成し、全職員が周知出来ている。避難設備が十分でないこともあり緊急時・災害時には近隣に住む利用者や家族にも援助に来ていただけるようネットワーク作りを進めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後摂取量のチェックを行い、一人ひとりの体調管理を行っている。塩分の取りすぎにならないよう、薄味を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者が生けた花が飾ってある。また、広いベランダを利用し花壇を作っており、大根やブロッコリー・春菊等の野菜や花々を利用者と職員が一緒になって栽培し、収穫を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、エアコンとクローゼットのみの備え付けとなっている為、使い慣れた家具を運び入れてもらいたいと家族に説明し、入居に備えている。お茶碗や湯のみ等の食器も自宅から持参して頂き、馴染みある各人思い思いの居室環境となっている。</p>		